日刊ゲンダイ 20

HOKKAIDO ROKUBIKEN

北海道鹿美健の挑戦 後編

令和の ニュービジネス 最前線

マイナスをプラスに変える 新たな地方再生モデル

増え過ぎて人間に害を与えている北海道のエゾシカ。そのエゾシカを漢方の生薬素材にし、世界中で売るという、日本初のビジネスモデルを実践している「北海道鹿美健（ろくびけん）」という会社が注目を浴びている。

北海道では、エゾシカがこれ以上増え過ぎないようにそれぞれの町で捕獲しているが、その数は、多い町で3000頭以上にものぼる。捕獲したエゾシカは産業廃棄物として処理されているが、その処理に1頭あたり約5500円もかかる。その費用は全て地方自治体が賄っており、北海道全体で頭の痛い問題になっているのだ。

「肉はジビエ料理やペットフードとして一部利用されていますが、骨や皮はほとんど利用されないで産業廃棄物になっていました。お金をかけて捨てられていた資源が生薬素材として利用できるのですから北海道にとってハッピーなこと。それを使った人は自分の健康や美容に役立つので、これもハッピーです。もちろん、わが社が儲かるのもハッピーなことです（笑）」とは、日本初のビジネスモデルを大成功させた「北海道鹿美健」の鄭権社長。

まさにマイナスをプラスにするニュービジネスだが、日本では初の試み。なかなか一筋縄ではいかなかったようである。

漢方生薬素材で〝健康寿命〟をのばす

「鹿の骨や皮、角を煮込んでニカワにする技術はレベルの高い伝統の職人技が必要です。ただ単に煮詰めればいいというものではなく、時間や温度のコントロール、水を入れるタイミングなど、伝統の職人技がなければできないのです。その熟練の職人を中国から日本に呼ぶのに苦労しました」

様々な苦労を乗り越え、薬学博士でもある鄭権社長は、ついにエゾシカの皮・骨・角から生薬素材を作り出すことに成功。中国やアジア諸国を中心に世界中から熱い視線を浴びている。

「漢方の伝道師」とも呼ばれるようになった鄭権社長はこう語る。

「人生100年時代といわれる日本で問題なのは健康寿命です。国はセルフケアのために健康食品も推奨していますが、健康食品は玉石混交の状況。動物実験で効果が認められても、人間に効くかどうかはわかりません。しかし、漢方は数千年の歴史の中で検証されてきています。100％ではないが、多くの人に効くものとして今も残っている。だから、もっと漢方素材を活用して健康食品作りに役立てていただきたいですね」

この鹿の生薬素材を使ったサプリのサンプルを周囲の人に配ったところ、「もっともらえないか！」という連絡が殺到しているそう。

エゾシカ博士の鄭権社長はまさに時の人。モテモテなのだ。（了）

北海道鹿美健 代表取締役
薬学博士 鄭権（ていけん）氏

1994年に中国吉林農業大学生薬学部卒業。その後、留学生として来日。2004年に東邦大学大学院薬学研究科生薬学教室の博士課程を修了し薬学博士に。現在は帰化し、北海道鹿美健をはじめ複数の会社を経営している。